

平成 21 年 10 月 30 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表執行役社長 八城 政基
(コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 22 年 3 月期中間業績見通しの上方修正に関するお知らせ ～中核業務の収益は増加、より強固な銀行グループへ～

当行は、本年 5 月 13 日の決算発表時に公表いたしました平成 22 年 3 月期連結中間業績見通しを下記のとおり上方修正いたします。当中間期には、銀行単体における 46 億円の繰延税金資産取崩しがあるものの、下記のとおり順調な業績となる見込みです。

- ・ 連結中間純利益予想は 50 億円から 110 億円に修正
(第 1 四半期の連結四半期純利益 51.7 億円、第 2 四半期の連結四半期純利益予想 58.9 億円)
- ・ 連結キャッシュベース中間純利益*予想は 202 億円
- ・ 単体中間純利益予想は 86 億円

当行社長の八城は以下のとおりコメントしています。「当行は、過去 1 年間、直面した課題を乗り越え、当行の持つ強みに注力し、より強固でバランスのとれた銀行グループを形成してまいりました。リーマン・ショック後、当行は業績改善を最優先に、業務の効率性とリスク管理の改善に専心し、お客さまのニーズに徹底的に応えるという基本に立ち返る姿勢で取り組んでまいりました。こうした当行の取り組みは着実に結果として表れ、黒字化、資産の質の改善、健全な資本比率および十分な流動性の確保を達成しつつあります。安定した収益基盤の再構築に向け、お客さま中心のビジネスに注力し、適切にリスクを管理しつつ、今期中には事業再構築を完了させたいと考えております。」

業績および資産の質

当行の平成 22 年 3 月期中間期は、中核業務からの収益が増加し、繰延税金資産取崩しによるマイナスの影響を受けながらも、順調な業績となりました。劣後債の買戻益や債務担保証券(CLO)の売却益などを活用しながら、過去に投資したリスク資産の処理を積極的に行い、また、業務合理化や適正規模への組織再編、子会社における低コストの IT システム導入効果などにより、大幅な経費削減も実現いたしました(新生フィナンシャル株式会社及びシンキ株式会社の分を除いた経費は平成 18 年 3 月期比 10%減少、平成 20 年 3 月期比 20%減少)。資産の質の改善も進み、不良債権比率は減少に転じつつあります。コンシューマーファイナンス子会社においては、過払い利息返還請求が減少する兆しも見え始め、業績は当初の想定どおりに推移しております。

流動性および資本

個人および法人預金を中心とした資金調達は安定し、十分な流動性を確保しています。平成 21 年 9 月末現在の手元流動性は約 1.7 兆円となっております。

銀行の資本水準に関する議論が世界的に繰り広げられる中、当行は引き続き資本の量的な充実のみでなく、質の向上にも注力しております。当行はより高度なバーゼルII基準のF-IRB方式(基礎的内部格付手法)をいち早く導入しており、また、繰延税金資産の計上は保守的に行っております(Tier I 資本の僅か約 3%)。さらに、当行劣後債等の買戻しを積極的に行うことで、資本の質の改善を実現しております。そして、市場の回復により有価証券評価差額は 2 年ぶりのプラスとなりました。平成 21 年 9 月末現在、Tier I 比率は 7%となる見通しです。

業務の状況

法人・商品部門においては、過去に投資したリスク資産の処理を積極的に行い、それに伴う売却益も計上しております。具体的な例としては、前期の減損処理により簿価が低下した債務担保証券(CLO)の売却が挙げられます。また、今後に向け、中堅、中小企業のようなニーズに応えるべく、中堅、中小企業の新規開拓専門部署を新設いたしました。個人部門においては、従来の預金を中心とした運用からより幅広い資産運用へといったニーズの変化に適切に対応しつつ、リテールバンキング業務の拡大を図っております。コンシューマーファイナンス業務において、当行の個人向け無担保ローンポートフォリオの大宗を占める新生フィナンシャル株式会社では、グレーゾーン損失補償という独特の仕組みを享受しており、シンキ株式会社では、業務効率をより高める抜本的な再編を完了しつつあります。リスク管理においては、新たに先進的なリスク管理体制や規定を構築するとともに、引き続き保守的な引当に努めてまいります。

見通し

当行は、今下半期についても、業績は堅調に推移できるものと確信しておりますが、平成 22 年 3 月期通期の業績予想につきましても、引き続き不安定な業務環境であることから、事業・経済環境の動向を踏まえ、当行の様々な施策の効果を見定めた上で、平成 22 年 3 月期第 3 四半期決算発表時にお知らせいたします。

当中間期の業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(単位:億円)

(単位:億円)

【連結】	経常収益	経常利益 (△は経常損失)	中間純利益 (△は中間純損失)	1株当たり中間純利益 (△は1株当たり 中間純損失)	キャッシュベース 中間純利益 (△は中間純損失)*
前回発表見通し (平成21年5月13日公表)(A)	3,100	100	50	2円54銭	
今回見通し(B)	2,977	53	110	5円63銭	202
増減額(B-A)	△123	△47	60	3円09銭	
増減率(%)	△4.0	△47.0	120.0	121.7	
(ご参考)前中間期実績 (平成21年3月期中間期)	2,833	△250	△192	△9円81銭	△143

*純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

(単位:億円)

【単体】	中間純利益 (△は中間純損失)
前回発表見通し(平成21年5月13日公表)(A)	
今回見通し(B)	86
増減額(B-A)	
増減率(%)	
(ご参考)前中間期実績(平成21年3月期中間期)	△363

以上